

地域ごとの耕種基準

村山地域

1. 地域の立地条件及び生育の改善目標

高品質大豆生産のための耕種基準

	立 地 条 件	生 育 の 特 徴
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹（野菜）＋水稻の複合経営地帯。大豆生産組織が少なく、労力に乏しい。 ・平坦部の30a区画ほ場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種期は5月末～6月上旬、開花期が8月始め、10月中旬に成熟期となる。（品種：スズユタカ） ・土壌は粘質で排水が悪く、碎土しにくい。 ・生育量は比較的確保しやすく、収量性は高いが品質の変動が大きい。
改 善 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の話し合いによる団地化（ブロックローテーション）と担い手による一貫した機械化体系で効率的大豆生産の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の徹底（明きょ・サブソイラー・弾丸暗きょ等） ・碎土率の向上と中耕培土の実施で、除草効果向上と生育量の確保。 ・適期刈取り、適正な調製による品質向上。

2. 生産地域、組織概要

(1) 地域概況

水田、果樹複合経営

(2) 大豆栽培面積

団地10ha

(3) 生産組織

構成員10名（基幹オペ2名：構成員は兼業可）

(4) 機械装備

機 種	台数	能 力	1日当たり作業量	機 種	台数	能 力	1日当たり作業量
トラクター	2	40Ps		大豆コンバイン	1	刈幅140cm	2 ha
ロータリーハロー	1	耕幅200cm	3 ha	大豆選別機	1	毎時500kg	4 t
播種機	1	3条	4 ha	色彩選別機	1	毎時300kg	2.4 t
中耕培土機	1	3連	3 ha				

3. 生産組織活動としての特徴

転作地の団地化については集落全体を包括する組織を通して合意形成を図る。生産組織は基本的に栽培の全てを受託し、省力的な機械化体系で大豆栽培を行う。水稻の育苗や乾燥調製については農協の育苗センターやライスセンターを活用し、基幹的なオペレーターを軸に補助員は兼業農家でも連絡を密にして、交替で出役し合う体制を作る。

4. 栽培技術の特徴

播種・中耕培土・刈取り等、一連の作業を省力的に行えるよう、うね幅については機械の能力に合わせて設定する。また排水対策についてはサブソイラーや溝掘機を活用し徹底を図る。

